

「研究大学強化促進事業」令和元年度フォローアップ結果

機 関 名	令和元年度フォローアップ結果
大 阪 大 学	<ul style="list-style-type: none">○事業全体が順調に進捗していると判断される。今後も成果と取り組みの継続に期待したい。○徹底した国際研究拠点の形成への意欲が見られる事業計画であり、グローバルな研究活動の成果が出ていることは高く評価される。○世界屈指のイノベーティブな大学として、イノベーションに関する世界ランキング 50 位以内に継続して再選されるような成果の創出に期待したい。

平成 30 年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	大阪大学				
統括責任者	役職	総長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長
	氏名	西尾 章治郎		氏名	尾上 孝雄

平成 30 年度フォローアップ結果
<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで、研究大学として十分な実績を示しており、現状分析に基づいた今後の取り組みについても着実な構想と判断され、本事業の最終成果が期待される。 ○ 一方で、URA の自主財源化率が低いため、事業終了後の対応方針の明確化が望まれる。

将来構想の達成に向けた現状分析				
将来構想 1 【世界屈指のイノベティブな大学】				
<p>① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況</p> <p>【全機関共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年 10 月にロジックツリー・ロードマップ提出後、本事業実施責任者である研究担当理事による検証を適時行った。その結果、アウトカム指標は順調に進捗していることが確認されたため、本年度の取組は既定方針通り進めることを基本としつつ、以下の2つのアウトプット（取組）については施策の効果を更に高めるために一層強化して取り組むこととした。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「[4]国際共同研究拠点の強化（国際ジョイントラボの増設）」においては、国際共著論文数の増加等、研究の国際化に対する効果が極めて高いことから自主財源の投入を大幅に増やし、本学の戦略的パートナーシップ機関である「グローバルナレッジパートナー」校との国際ジョイントラボの形成や、世界トップレベル研究拠点形成に向けた分野における国際ジョイントラボの形成を推進することとした。 ➢ 「[11]異なる研究分野の研究者の連携による研究グループの支援」においては、特に若手研究者にとってより早いタイミングで異なる研究分野の研究者と多様な独創的研究を育むことが、創造性に富み、挑戦的な未来を拓く研究力の強化に重要であることから、学内の異なる研究分野の融合を支援する新たなプログラムとして「異分野融合研究形成支援プログラム」を開始することとした。 ○ EBPM に係る組織文化を絶えず高揚させる、ロジックツリー・ロードマップの活用を促進することを目的とし、研究大学強化促進事業の取組の一環として EBPM に関するセミナー（FD/SD）を開催した。（「ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況」の第 1 項参照） <p>【機関別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究大学強化促進事業の期間は同補助金を URA の人件費に優先的に充てるという方針でロードマップを策定したため、URA の自主財源化率が低いというご指摘を頂いた。本事業終了後の URA の自主経費での配置への円滑な移行のためにロードマップを見直し 2022 年度時点で自主財源化率を 66%とする計画に改めた。（2019 年 3 月提出） 				
<p>② 現状の分析と取組への反映状況</p> <p>「事業終了後までのアウトカム」と「中間的なアウトカム」の指標の 2018 年度実績を以下の 2 つの表に示す。ロジックツリーに示した成果目標に向かい、全ての指標が順調に推移している。従って、2018 年度に設定した「目標設定に向けた課題」と「対応する主な取組」を変更する必要は無いと判断した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">「事業終了までの」 指標</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">実績 2018</td> <td style="width: 45%; text-align: center;">目標達成に向けた課題 (2018 年度設定からの変更無し)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">対応する 主な取組</td> </tr> </table>	「事業終了までの」 指標	実績 2018	目標達成に向けた課題 (2018 年度設定からの変更無し)	対応する 主な取組
「事業終了までの」 指標	実績 2018	目標達成に向けた課題 (2018 年度設定からの変更無し)	対応する 主な取組	

世界最先端研究機構の拠点数	WPI クラス1 拠点	研究動向と学内人材の分析に基づき研究領域の検討を進め、新たな拠点を形成することが課題である。	[1] [2] [3] [5]
先導的学際研究機構の領域数	9 領域 (累計)	領域数は順調に増加している。それらの中から有望なグループを育成して、 <u>世界最先端研究機構の拠点に発展させる</u> ことが課題である。	[1] [5]
データリテラシー機構における研究プロジェクト数	25 プロジェクト	目標達成可能な水準で進捗している。引き続き、データ駆動型科学の考えを学内に浸透させ、研究プロジェクトとなる <u>新たな領域を探索</u> することが課題である。	[1] [5]
大阪大学内の国際ジョイントラボ数	63 拠点	順調に進捗している。 <u>新たな国際ジョイントラボの設置</u> をより強力に推進することにより、国際的研究環境の充実に努める。	[4]
外国人教員比率	7.7%	順調に進捗している。引き続き、 <u>国際公募を推進</u> すること、 <u>外国人教員に対する支援を充実</u> する。	[6] [7]
若手教員比率	29.4%	<u>若手教員を対象とした支援策を充実</u> させることにより、より魅力的な研究環境になるように努める。	[8] [9] [10] [11]
女性教員比率	17.5%	順調に進捗している。 <u>女性教員を対象とした支援策を充実</u> させることにより、より魅力的な研究環境になるように努める。	[8] [9] [10] [11]
自主財源による本部 URA 配置数	10 名	自主財源による URA を安定的に雇用し、 <u>本補助事業雇用 URA と一体的に運用</u> する。加えて、IFReC や部局の URA (類似職を含む) と引き続き連携していく。	[12] [13]
URA を配置している部局 (等) 数	8 部局	URA の 4 職階 (呼称) がより広く学内で適用されるよう、学内ネットワークの連携を深めることが課題である。	[12] [13]
グローバルナレッジパートナー校の数	3 校	グローバルナレッジパートナー等による国際協働ネットワークの基盤を形成するために、 <u>海外研究者との交流を推進</u> することと、 <u>事務職員の国際対応能力をさらに向上</u> させることが課題である。	[14] [15]

国際合同会議の件数	79 件 (2013 からの累計)	順調に進捗している。大阪大学の研究者グループと <u>海外の研究者グループとの交流を継続的に推進</u> する。	[14]
若手・女性研究者の海外派遣と海外研究者招へいの数	73 件 (2013 からの累計)	順調に進捗している。大阪大学の若手・女性研究者と <u>海外の研究者との共同研究</u> を引き続き推進する。	[14]
ガバナンスの効率化のために大学経営総括理事と教育研究総括理事を支援する URA と URA 類似職の数	13 名	ガバナンスの効率化のため、優秀な URA と URA 類似職の確保と活用を進めることが課題である。	[12]
財務基盤強化のために「知」と「人材」と「資金」の好循環を推進する共創機構における高度専門人材数	14 名	「知」と「人材」と「資金」の好循環を推進するため、 <u>優秀な高度専門人材 (URA を含む) の確保と活用</u> をさらに進める。	[12]
共同研究講座・部門と協働研究所数	87 件	順調に進捗している。企業との <u>密接な研究連携</u> をキャンパス内で更に進める。	[16]

産学連携による民間資金獲得額	79 億円	順調に進捗している。研究成果の事業化に向けた活動を含め、産学連携を強力に推進する。	[16]
----------------	-------	---	------

「中間的な」指標	実績 2018	目標達成に向けた課題 (2018 年度設定からの変更無し)	対応する 主な取組
論文剽窃チェックツール iThenticate の登録者数	2130 名	研究倫理意識を高めるための取組を継続して実施する。	[5]
国際公募の割合	95%	順調に進捗している。引き続き、国際公募に係る業務の効率化を進める。	[6]
英語による科研費申請数	68 件	外国人教員が日本人教員と同等に活躍できるように支援を充実することが課題である。	[7]
多様な人材や異分野が融合する若手・女性研究者を含むグループの構成を目指す新たな施策による研究グループ数	2019 年度開始の施策のため、2018 年度は 0	若手・女性教員を対象とした支援策を充実させることが課題である。	[10][11]
大阪大学 URA スキル標準の高度化及び運用	第 2 版の作成と第 3 版開発着手	URA の知識と技能を更に向上させるため、改訂・運用開始したスキル標準を日々の業務の中で定着させることが課題である。	[12]
事務職員による海外の大学の訪問企画と調査への参加者数	127 名 (2013 年度からの累計)	日常業務多忙の中、企画と実施に充てる時間を捻出することが課題である。	[15]
実用性検証のための施策（大阪大学 Innovation Bridge グラント）の実施数	41 件	研究成果の事業化に向けた取り組みを継続的に推進する。	[16]

前述のように、本年度の取組は既定方針通り進めることを基本としつつ、[4]、[11]の取組については更に強化して取り組むこととした。

[1] 国の政策情報の収集や国際的研究動向の調査分析、及び研究 IR

新たな WPI クラスの拠点形成するため、研究動向に関する情報とデータに基づく研究力分析を推進する。

[2] 世界的研究拠点としての トップレベル研究に対する支援体制強化

[3] 世界的研究拠点としての国際競争力の一層の強化

WPI アカデミー拠点である IFRcC において、世界最高水準の研究組織にふさわしい研究支援の更なる強化を推進する。

[4] 国際共同研究拠点の強化（国際ジョイントラボの増設）

新たな国際ジョイントラボ設置に向けた取組として、国際共同研究の奨励と研究者の交流の施策（[14]）を実施する。加えて、本年度は「グローバルナレッジパートナー」校との国際ジョイントラボの形成や、世界トップレベル研究拠点形成に向けた分野における国際ジョイントラボの形成を強化する計画とした。

[5] 研究者の研究倫理意識向上施策の実施

世界的研究拠点として必須である研究倫理の意識向上施策を引き続き実施する。

[6] 教員や研究員の国際公募の推進

教員や研究員の国際公募実施時の業務量の削減のため、URA が人事課と調整し全学共通様式を用いた公募要領作成支援ツールを開発する。

[7] 外国人研究者に対する研究資金獲得支援

外国人教員に対する支援として、研究資金獲得の為に英語マニュアルの作成等の URA による支援を強化して実施する。

[8] 外部資金情報の収集と学内周知、申請書作成支援、模擬ヒアリング等

若手・女性教員を主な対象とした外部資金の獲得支援を URA と事務職員が連携して実施する。

[9] 研究情報の積極的な国際発信の支援

[10] 学内人材の多様性を研究力強化に活かすための場の設定

[11] 異なる研究分野の研究者の連携による研究グループの支援

若手・女性教員を主な対象とした、英語論文の投稿支援、ホームページでの情報発信支援、研究者交流の場の設定と新たな支援策の検討を行う。また、令和元年度は学内の外国人研究者を含む異なる研究分野の研究者からなる融合研究を増加することを企図したプログラムを新たに実施する計画とした。

[12] 研究マネジメント人材群の確保・活用

学内の URA (類似職を含む) とのネットワークを深化し、部局等の中で専門知識や技能の情報共有をさらに深化させる。加えて、URA の 4 職階 (呼称) がより広く学内で適用できるよう改めて学内に通知する。

加えて、ガバナンス支援人材、共創のための高度専門人材の確保・活用、これまでに雇用した URA との連携を進める。

さらに、URA の技能を向上させるための施策を講じるとともに、URA が全国的に定着することを視野に入れた取組として、ホームページや RA 協議会等での情報発信をより積極的に実施する。

[13] 研究支援システム改革の横展開

WPI アカデミー拠点である研究支援ノウハウを継続して学内に横展開する。

[14] 国際共同研究の奨励と研究者の交流

海外研究者との交流を推進するため、研究者の海外派遣や外国人研究者の受入を更に進める。加えて、海外の研究者との合同会議の支援を継続して行う。

[15] 事務部門の国際対応・研究支援能力の強化

事務職員の国際対応能力をより向上させるため、グローバルナレッジパートナー校等での OJT や調査を実施する。

[16] 研究成果の実用化支援

研究成果の事業化や市場創出の可能性を研究の初期段階で効率的に把握し、実用化に向けた技術検証を行う施策を継続する。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

EBPM に係る組織文化を絶えず高揚させ、かつ、ロジックツリー・ロードマップの活用を促進するため、研究大学強化促進事業の取組の一環として、URA が主催して第 11 回学術政策セミナー「エビデンスに基づく政策立案を考える ～大学の研究や教育の推進を事例として～」を開催した。
(<https://www.ura.osaka-u.ac.jp/thinkuniversity/20190308.html>)

特筆すべき事項 (定性的な現状・取組状況等)

ロジックツリーで将来構想としている「世界屈指のイノベティブな大学」を目指して、卓抜した研究成果の社会実装を通じて見いだされた研究課題を深く探求し、新たな知を創造し、それが更に大きな革新的価値を生む仕組みである「研究開発エコシステム」の確立を大阪大学の経営改革構想として掲げた。経営企画オフィスや共創機構の URA がこの実現に取り組むこととした。

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus		WoS	
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均
国際共著論文率	27.7%	28.8%	29.4%	30.7%
産学共著論文率	6.2%	7.3%	3.6%	4.7%
Top10%論文率	10.7%	10.6%	10.1%	10.1%

大阪大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】

将来構想

事業終了までのアウトカム
(2021年度-2022年度)

中間的なアウトカム
(2019年度-2020年度)

アウトプット
(2019年度の取組)

アウトプット
(2018年度の取組)

世界屈指の
イノベティブな
大学

世界的研究拠点の形成	
指標(1)	世界最先端研究機構の拠点数
指標(2)	先導的学際研究機構の領域数
指標(3)	データリテラシー機構における研究プロジェクト数
指標(4)	大阪大学内の国際ジョイントラボ数

卓越した外国人研究者の獲得・育成

指標(5)	外国人教員比率
-------	---------

卓越した若手・女性研究者の獲得・育成

指標(6)	若手教員比率
指標(7)	女性教員比率

高度専門人材の確保・活用

指標(8)	自主財源による本部URA配置数
指標(9)	URAを配置している部局(等)数

国際協働ネットワークの基盤強化

指標(10)	グローバルナレッジパートナー校の数
指標(11)	国際合同会議の件数
指標(12)	若手・女性研究者の海外派遣と海外研究者招へいの数

ガバナンス改革・財務基盤強化

指標(13)	ガバナンスの効率化のために大学経営総括理事と教育研究総括理事を支援するURAとURA類似職の数
指標(14)	財務基盤強化のために「知」と「人材」と「資金」の好循環を推進する共創機構における高度専門人材数
指標(15)	共同研究講座・部門と協働研究所数
指標(16)	産学連携による民間資金獲得額

研究倫理の意識向上

指標①	論文剽窃チェックツールThenticateの登録者数
-----	----------------------------

国際公募の推進支援

指標②	国際公募の割合
-----	---------

外国人研究者支援施策の充実

指標③	英語による科研費申請数
-----	-------------

若手・女性研究者による研究の推進支援

指標④	多様な人材や異分野が融合する若手・女性研究者を含むグループの構成を目指す新たな施策による研究グループ数
-----	---

URA育成制度の充実

指標⑤	大阪大学URAスキル標準の高度化及び運用
-----	----------------------

事務職員の国際研修

指標⑥	事務職員による海外の大学の訪問企画と調査への参加者数
-----	----------------------------

研究成果の実用化支援

指標⑦	実用性検証のための施策(大阪大学Innovation Bridge Grant)の実施数
-----	--

[1] 国の政策情報の収集や国際的研究動向の調査分析、及び研究IR
2018年度の取組を継続して進める

[2] 世界的研究拠点としてのトップレベル研究に対する支援体制強化
2018年度の取組を継続して進める

[3] 世界的研究拠点としての国際競争力の一層の強化
2018年度の取組を継続して進める

[4] 国際共同研究拠点の強化(国際ジョイントラボの増設)
2018年度の取組に加えて、新たに「グローバルナレッジパートナー」校との国際ジョイントラボの形成や、世界トップレベル研究拠点形成に向けた分野における国際ジョイントラボの形成を強化する

[5] 研究者の研究倫理意識向上施策の実施
2018年度の取組を継続して進める

[6] 教員や研究員の国際公募の推進
2018年度の取組を継続して進める

[7] 外国人研究者に対する研究資金獲得支援
2018年度の取組を継続して進める

[8] 外部資金情報の収集と学内周知、申請書作成支援、模擬ヒアリング等
2018年度の取組を継続して進める

[9] 研究情報の積極的な国際発信の支援
2018年度の取組を継続して進める

[10] 学内人材の多様性を研究力強化に活かすための場の設定
2018年度の取組を継続して進める

[11] 異なる研究分野の研究者の連携による研究グループの支援
2018年度の取組実績をふまえて、学内の外国人研究者を含む異なる研究分野の研究者からなる融合研究を増加することを企図した新たなプログラムを開始する。

[12] 研究マネジメント人材群の確保・活用
2018年度の取組を継続して進める

[13] 研究支援システム改革の横展開
2018年度の取組を継続して進める

[14] 国際共同研究の奨励と研究者の交流
2018年度の取組を継続して進める

[15] 事務部門の国際対応・研究支援能力の強化
2018年度の取組を継続して進める

[16] 研究成果の実用化支援
2018年度の取組を継続して進める

[1] 国の政策情報の収集や国際的研究動向の調査分析、及び研究IR
研究動向に関する情報とデータに基づく研究力分析により、世界的研究拠点形成のための執行部による意思決定をURAが支援する

[2] 世界的研究拠点としてのトップレベル研究に対する支援体制強化
WPIアカデミー拠点であるIFReCが世界最高水準の研究組織としての研究環境の高度化をするためにURAが若手優秀研究人材確保の取組みを行う

[3] 世界的研究拠点としての国際競争力の一層の強化
IFReCが世界水準の研究成果を継続して生み出すために、URAが国際機関との交流支援と研究成果情報の国際発信を強化する

[4] 国際共同研究拠点の強化(国際ジョイントラボの増設)
世界で活躍している研究者と大阪大学内に更に多くのジョイントラボを設けて共同研究を推進し、世界的研究拠点としての地位を高める。URAは制度の運営支援と研究者の支援を行う

[5] 研究者の研究倫理意識向上施策の実施
世界的研究拠点としての名声を損なわないために、論文剽窃チェックツールとe-learningにより、論文不正防止の意識を高め、研究倫理教育を高度化する。URAは研究支援の機会にツールの普及に努める

[6] 教員や研究員の国際公募の推進
URAが英文公募支援や外国人に対する面接実施支援とともに、国際公募手続の部局向けツールを作成することによって、外国人研究者の獲得を推進する

[7] 外国人研究者に対する研究資金獲得支援
URAが競争的資金制度や学内手続、申請書作成に関する英文マニュアルを作成するとともに、説明会を実施することにより、外国人研究者を育成する

[8] 外部資金情報の収集と学内周知、申請書作成支援、模擬ヒアリング等
競争的資金の情報収集や説明会等による学内周知とともに、若手・女性研究者を主な対象として、URAによる申請書作成やヒアリング対応への支援を行うことにより、卓越した研究者に育成する

[9] 研究情報の積極的な国際発信の支援
若手・女性研究者を主な対象として、URAによる英語論文投稿支援、ホームページ作成支援、英語書籍出版支援等を通して、研究成果等の国際発信を強化することにより、卓越した研究者に育成する

[10] 学内人材の多様性を研究力強化に活かすための場の設定
研究上の発想を柔軟にし、新たな研究アイデアを生み出すため、所属、職種、分野が異なる人々が交流する機会をURAが若手・女性研究者に提供することによって、卓越した研究者に育成する

[11] 異なる研究分野の研究者の連携による研究グループの支援
若手・女性研究者を含む将来的に発展が期待できる研究グループなど、部局や分野横断的な活動を支援することによって、卓越した研究者に育成する。URAはこの活動の企画と運営に当たる

[12] 研究マネジメント人材群の確保・活用
URAは研究力強化のために執行部(特に総括理事)・研究者に対する多様な支援を行うとともに、URAのスキル向上に努める。また、メルマガやホームページ、講演、ミーティング等を通して学内外にURAの知識や技能を提供することによって、高度専門人材の普及に貢献する。それらに加えて、共創機構等の高度専門人材に知識と技能を提供するなどの協力を提供する

[13] 研究支援システム改革の横展開
WPIアカデミー拠点であるIFReCの世界水準の研究支援体制の企画・運営の経験を、URAが協力して、全学に波及させる

[14] 国際共同研究の奨励と研究者の交流
国際協働ネットワークの基盤強化に資する若手・女性研究者の海外派遣及び外国人研究者の受入れや国際合同会議の開催に関して、URAはこれらの選考の支援をする。また、戦略的組織間連携を推進するパートナー校の選考に協力する

[15] 事務部門の国際対応・研究支援能力の強化
国際協働ネットワークの基盤強化のため、事務職員(他機関(外国を含む))の訪問調査等により国際対応能力を強化する。URAは訪問先の選考等にアドバイスする

[16] 研究成果の実用化支援
大阪大学の財務基盤を強化する一環として、研究成果の事業化の可能性を研究の初期段階で把握するための施策(大阪大学Innovation Grant)を実施する。URAはこの活動において、研究情報の提供などの協力を提供する

※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

指標 I
Nature Index Innovation (N&略記) や Reuters' World's Most Innovative Universities (Rと略記) などのイノベーションに関する世界大学ランキング

大阪大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

(1) 事業実施計画

年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023	
将来構想	事業終了までのアウトカム	中間的なアウトカム						
世界屈指のイノベティブな大学	研究倫理の意識向上	<p>[5] 研究者の研究倫理意識向上施策の実施</p> <p>世界的研究拠点としての名声を損なわないために、論文剽窃チェックツールと e-learning により、論文不正防止の意識を高め、研究倫理教育を高度化する。URA は研究支援の機会にツールの普及に努める</p>						
	指標①:論文剽窃チェックツール iThenticate の登録者数			2200				
	世界的研究拠点の形成		<p>[1] 国の政策情報の収集や国際的研究動向の調査分析、及び研究 IR 研究動向に関する情報とデータに基づく研究力分析により、世界的研究拠点形成のための執行部による意思決定を URA が支援する</p>					
			<p>[2] 世界的研究拠点としてのトップレベル研究に対する支援体制強化</p> <p>WPI アカデミー拠点である IFRc が世界最高水準の研究組織としての研究環境の高度化をするために URA が若手優秀研究人材確保の取り組みを行う</p>					
			<p>[3] 世界的研究拠点としての国際競争力の一層の強化</p> <p>IFReC が世界水準の研究成果を継続して生み出すために、URA が国際機関との交流支援と研究成果情報の国際発信を強化する</p>					
			<p>[4] 国際共同研究拠点の強化（国際ジョイントラボの増設）</p> <p>世界で活躍している研究者と大阪大学内に更に多くのジョイントラボを設けて共同研究を推進し、世界的研究拠点としての地位を高める。URA は制度の運営支援と研究者の支援を行う</p>					
	指標(1):世界最先端研究機構の拠点数					WPI クラス 3 拠点		
	指標(2):先導的学際研究機構の領域数					10 領域 (累計)		
	指標(3):データビリティフロンティア機構における研究プロジェクト数					31 プロジェクト		
	指標(4):大阪大学内の国際ジョイントラボ数					80		
	卓越した外国人研究者の獲得・育成	国際公募の推進支援	<p>[6] 教員や研究員の国際公募の推進</p> <p>URA が英文公募支援や外国人に対する面接実施支援とともに、国際公募手続の部局向けツールを作成することによって、外国人研究者の獲得を推進する</p>					
		指標② 国際公募の割合			97%			
		外国人研究者支援施策の充実	<p>[7] 外国人研究者に対する研究資金獲得支援</p> <p>URA が競争的資金制度や学内手続、申請書作成に関する英文マニュアルを作成するとともに、説明会を実施することにより、外国人研究者を育成する</p>					
	指標③ 英語による科研費申請数			80 件				
	指標(5) 外国人教員比率					10%		
卓越した若手・女性研究者の獲得・育成	若手・女性研究者による研究の推進支援	<p>[10] 学内人材の多様性を研究力強化に活かすための場の設定</p> <p>研究上の発想を柔軟にし、新たな研究アイデアを生み出すため、所属、職種、分野が異なる人々が交流する機会を URA が若手・女性研究者に提供することによって、卓越した研究者に育成する</p>						
		<p>[11] 異なる研究分野の研究者の連携による研究グループの支援</p> <p>若手・女性研究者を含む将来的に発展が期待できる研究グループなど、部局や分野横断的な活動を支援することによって、卓越した研究者に育成する。URA はこの活動の企画と運営に当たる</p>						

世界屈指のイノベータティブな大学

	<p>指標④ 多様な人材や異分野が融合する若手・女性研究者を含むグループの構成を目指す新たな施策による研究グループ数</p>		5				
		<p>[8] 外部資金情報の収集と学内周知、申請書作成支援、模擬ヒアリング等 競争的資金の情報収集や説明会等による学内周知とともに、若手・女性研究者を主な対象として、URAによる申請書作成やヒアリング対応への支援を行うことにより、卓越した研究者に育成する</p> <p>[9] 研究情報の積極的な国際発信の支援 若手・女性研究者を主な対象として、URAによる英語論文投稿支援、ホームページ作成支援、英語書籍出版支援等を通して、研究成果等の国際発信を強化することにより、卓越した研究者に育成する</p>					
<p>指標(6):若手教員比率</p>						1/3	
<p>指標(7):女性教員比率</p>						20%	
<p>高度専門人材の確保・活用</p>	<p>URA 育成制度の充実</p>	<p>[12] 研究マネジメント人材群の確保・活用 URAは研究力強化のために執行部(特に総括理事)・研究者に対する多様な支援を行うとともに、URAのスキルの向上に努める。また、メルマガやホームページ、講演、ミーティング等を通して学内外にURAの知識や技能を提供することによって、高度専門人材の普及に貢献する。それらに加えて、共創機構の高度専門人材に知識と技能を提供するなどの協力をする。</p>					
<p>指標⑤:大阪大学URAスキル標準の高度化及び運用</p>						第3版の運用	
		<p>[13] 研究支援システム改革の横展開 WPIアカデミー拠点であるIFReCの世界水準の研究支援体制の企画・運営の経験を、URAが協力して、全学に波及させる</p>					
<p>指標(8):自主財源による本部URA配置数</p>						16名	
<p>指標(9):URAを配置している部局(等)数</p>						12	
<p>国際協働ネットワークの基盤強化</p>	<p>事務職員の国際研修</p>	<p>[15] 事務部門の国際対応・研究支援能力の強化 国際協働ネットワークの基盤強化のため、事務職員他機関(外国を含む)の訪問調査等により国際対応能力を強化する。URAは訪問先の選考等にアドバイスする</p>					
<p>指標⑥:事務職員による海外の大学の訪問企画と調査への参加者数</p>						140名(2013からの累計)	
		<p>[14] 国際共同研究の奨励と研究者の交流 国際協働ネットワークの基盤強化に資する若手・女性研究者の海外派遣及び外国人研究者の受入れや国際合同会議の開催に関して、URAはこれらの選考の支援をする。また、戦略的組織間連携を推進するパートナー校の選考に協力する</p>					
<p>指標(10):グローバルナレッジパートナー校の数</p>						5	
<p>指標(11):国際合同会議の件数</p>						100件(2013からの累計)	
<p>指標(12):若手・女性研究者の海外派遣と海外研究者招へいの数</p>						100件(2013からの累計)	

世界屈指のイノベティブな大学	研究成果の実用化支援	[16] 研究成果の実用化支援 大阪大学の財務基盤を強化する一環として、研究成果の事業化の可能性を研究の初期段階で把握するための施策（大阪大学 Innovation Grant）を実施する。URAはこの活動において、研究情報の提供などの協力をする					
	指標⑦:実用性検証のための施策（大阪大学 Innovation Bridge グラント）の実施数			70件 (2017からの累計)			
	指標(13):ガバナンスの効率化のために大学経営総括理事と教育研究総括理事を支援するURAとURA類似職の数					13名	
	指標(14):「知」と「人材」と「資金」の好循環を推進する共創機構における高度専門人材数					30名	
	指標(15): 共同研究講座・部門と協働研究所数					85	
	指標(16):産学連携による民間資金獲得額					90億円	
指標 I : Nature Index Innovation や Reuters' World's Most Innovative Universities) などのイノベーションに関する世界大学ランキング						いずれかにおいて、50位以内	

※:「教員」には特任教員（常勤）を含む